

いかわ



議会 だより

No. 161

2025. 1. 1

新年号



賀正



おいしい野菜を食卓へ
(つかまファーム)

12月議会

(会期・12月5日～10日)



年頭のあいさつ	2
第4回定例会	3
常任委員会	4
一般質問（7議員登壇）	5
陳情・全員協議会・議員研修視察	13
聞かせて町の声！・議会のうごき	14

議長年頭あいさつ



井川町議会 議長

遠藤政勝

新年おめでとうございます。

町民の皆様におかれましては、新春を健やかにお迎えのことと心からお慶び申し上げます。

また、日頃より議会に對しましてご理解とご協力を賜り厚く御礼を申し上げます。

さて、昨年令和6年1月には任期満了に伴う井川町議会議員一般選挙が行われ、16年ぶりの投票による選挙戦となり11名が当選し、積極的

に議会活動を展開しています。昨年は大きな災害もなく、稲作は平年作ながら、米価の高騰もあり、農家の皆さんは「ホッ」としている事と思います。ただ、原油価格、物価の高騰が続き社会経済活動に影響が出ております。

全国町村議会議長会では、持続可能な地域社会を確立するため各施策の充実に對し要望しています。

議会は法律の定めにより、議事機関として、町の重要な意思決定に関する事件を議決し、検査、調査をし、住民の負託を受け、誠実に職務に努めています。そして、安全で安心な住みよい町づくりに邁進してまいります。

結びに、新しい一年が穏やかで災害のない、そして皆様にとって幸多き年でありますように心からご祈念申し上げます、新年のあいさつとい

新年を迎え、議員として、個人としての
目標・意気込みを聞きました

副議長 浅野 義幸

○ 今年は、もつと町民の皆様と対話を深めたい
○ ベジ・ファーストで食生活改善に努めたい

伊藤 一彦

○ 議員定数削減及び報酬改定に向けた取り組み
○ 秋田県開催の天皇賜杯全日本軟式野球大会出場

八柳 喜行

○ 昨年一年間の貴重な体験を基に「町民ファースト」を貫き、よりよき町づくりに励みます

石井 茂

○ 二元代表の進化
○ イノシシ・タヌキから農作物を守る取り組み

伊藤 毅

○ 内外に向けた当町の魅力ある情報発信の構築と、その波及効果も利用した人口減少対策への布石作り

伊藤 秀人

○ 立場的に人と話す場が増えた。語彙の量や質を高め、相手にあわせて説明、表現する力をつける

三浦 成利

○ 声をかける、かけてもらえる議員
○ 数多くの町民と何気ない話をしたい

藤田 将五

○ 地域や政策分野、議会運営への知識を深め【挑戦】を恐れず行動する一年にしたい

伊藤 俊郎

○ 今後の議会運営委員会がどうあるべきか検討する
○ 町民の安全を守るため、鳥獣被害防止につとめる

佐々木昌子

○ 議員として、町民の皆様の幸せを願う事が第一です。そして自分として初心を軸とし活動したい



町民皆様のご健勝とご多幸をお祈りします
今年もよろしくお願ひします

● まちづくり会社を令和7年4月に設立 町の全額出資で町から受託の4事業を展開

- ・ ふるさと納税の返礼品発送事業
- ・ 特産物の商品開発、農産物加工事業
- ・ 日本国花苑内の宿泊棟管理運営事業
- ・ デマンド交通事業

12月定例会議決事項名

- ◆ 井川町議会議員及び井川町長の選挙における選挙運動の公費負担に関する条例の一部を改訂する条例について
- ◆ 井川町議会の議員の議員報酬及び費用弁償等に関する条例の一部を改正する条例について
- ◆ 井川町特別職の職員で常勤の職員の給与及び旅費に関する条例の一部を改正する条例について
- ◆ 井川町一般職の職員の給与に関する条例の一部を改正する条例について
- ◆ 秋田県市町村総合事務組合規約の一部変更等について
- ◆ 令和6年度井川町一般会計補正予算（第5号・第6号）について
- ◆ 令和6年度井川町国民健康保険事業特別会計補正予算（第3号）について
- ◆ 令和6年度国民健康保険井川町診療所特別会計補正予算（第2号）について
- ◆ 令和6年度井川町介護保険事業特別会計補正予算（第2号）について
- ◆ 令和6年度井川町介護認定事業特別会計補正予算（第2号）について
- ◆ 令和6年度井川町後期高齢者医療特別会計補正予算（第1号）について
- ◆ 令和6年度井川町水道事業会計補正予算（第2号）について
- ◆ 令和6年度井川町下水道事業会計補正予算（第1号）について

第4回定例会は5日～10日の会期で開かれ、まちづくり会社設立出資金1000万円を盛り込んだ一般会計補正予算13件を原案通り可決。

また、医療・介護の人員増と処遇改善をとめるなどの陳情6件を採択とし、それぞれ関係機関に意見書を提出することにした。

令和6年度一般会計補正予算は1億1260万円を追加し、38億1070万円とした。

令和6年度 各会計歳出予算（補正）

(単位：万円)

会 計 名	補正額	補正後の額	主 な 内 容	増 減
一 般 会 計	1 億1,260	38億1,070	ふるさと交流センター非常用発電機改修工事	173
			日本国花苑宿泊棟建設工事設計委託	567
			会社設立準備委員会補助金	50
			会社設立出資金	1,000
			人件費	1,395
			後期高齢者医療費	324
			障がい者福祉費	1,365
			認定こども園管理費	526
			保健対策推進費	1,054
			日本国花苑管理費	△ 711
			緊急防災・減災事業費	397
			教育振興費（図書購入費）	286
			スポーツセンター管理費	1,944
			農業用施設災害復旧費	200
			河川災害復旧事業費	453
国民健康保険事業特別会計	54	6 億4,541	一般管理費	53
国民健康保険井川診療所特別会計	△ 228	9,138	医療費	△ 263
介護保険事業特別会計	130	8 億8,823	一般管理費	130
介護認定事業特別会計	209	2,678	機械器具費	209
後期高齢者医療特別会計	△ 262	6,758	後期高齢者医療広域連合納付金	△ 262
水道事業会計	48	1 億1,342	人件費など	48
下水道事業会計収益の支出	124	1 億9,432	管理業務負担金・人件費など	124
下水道事業会計資本的支出	88	1 億5,326	流域下水道建設費負担金など	88

常 任 委 員 会

来年度に向けて、町が100%出資する 株式会社設立準備がスタート

総務産業常任委員会

総務課

問 株式会社設立準備委員会の予算は、どのようなことを想定しているか。

答 会社設立前の定款の認証資金や登録免許税、それらを司法書士に依頼する費用等である。

問 正社員の採用時期は。

答 会社稼働は7月を予定、それよりは早く採用したい。公募採用とするか、経験者を採用するか検討中である。

問 株式会社設立の事業計画は。

答 当初予算の内示までには提出する。

税務会計課

問 補正で追加した消耗品費の用途は。

答 災害発生時にいち早く罹災証明書等の発行が出来るよう準備する予算である。

産業課

問 融雪剤散布機購入予算の根拠は。

答 町内業者からの見積額。格安の購入予算である。



新会社設立計画がスタート

教育民生常任委員会

町民生活課

問 今回購入したX線撮影装置購入費が減額となった理由は。

答 当初予算と落札額の差額によるものである。

健康福祉課

問 出生児への定額給付金が補正されたが、今年度の



新たに整備されたX線撮影装置

出生児の予定人数は。

答 年度末までに15名の予定である。

教育委員会

問 旧小学校の解体を2回に分けて行う理由は。

答 年低学年棟は物品等が保管されており、直ぐには撤去できない。また、工事費高騰の影響もあるため、出来る所から解体する。

7人の議員が 一般質問

令和6年度第4回井川町議会定例会で一般質問を12月5日・6日
7名の議員が行った

P 6	伊藤 毅 議員（一問一答方式） 1 町の情報発信について
P 7	三浦 成利 議員（一問一答方式） 1 幼児教育の教育課程などについて
P 8	伊藤 秀人 議員（一問一答方式） 1 消防の広域化について 2 歴史民俗資料館の存在目的と町史編さんについて
P 9	伊藤 一彦 議員（一問一答方式） 1 将来を見据えた農業政策について
P 10	石井 茂 議員（一問一答方式） 1 被災者支援について 2 小型ポンプ操法場の建設について
P 11	八柳 善行 議員（一問一答方式） 1 水害の調査結果と恒久対策の規模と予算、実施時期について 2 公共施設の修理・修繕と繰越金について
P 12	藤田 将五 議員（一問一答方式） 1 井川町の今後の農業について 2 ふるさと納税返礼品の井川産米について

町政のここが聞きたい

◆一般質問のルールについて◆

質問の方式には、一括質問方式と一問一答方式の2通りがあります。

一括質問方式とは

議員が通告した質問主題の要旨すべてを演壇で一括して質問し、その後町長などが演壇でその質問主題の要旨に対して一括して答弁を行う方式。

一問一答方式とは

議員が通告書に記載した質問項目ごとに質問・答弁を行う質問方式で、一括質問方式とは異なり、1つの項目についての質問が完結してから、次の項目について質問する方式。

一般質問

町の情報発信について

ホームページ等セキュリティ含め全面更新



いとう 伊藤
たけし 毅
議員

伊藤毅 ホームページを見に来た人が、どの地域からか、どこを見ているかなどホームページに分析ツールを織り込む必要があると考える。それがわかれば、そのサイトを更に充実させることで、見る人には更に関心を寄せて頂ける。

町長 令和5年度、6年度は告知放送の更新を優先させたが、令和7年度では町のホームページを全面更新する。この更新に併せ「お問合せフォーム」を設置し、暗号化にも対応したサイトにする予定。また、サイトの改善に繋げるた

め、アクセスの分析ツールも導入する。

伊藤毅 ホームページがスマートフォンに対応しておらず、パソコン画面がスマートフォンで見えているだけで見辛い。子育ての若い方を含め、最近はスマートフォンで見える傾向が強くなっている。スマートフォン対応、ホームページの暗号化を含めたリニューアルを要望する。

町長 ホームページの更新に併せ、スマートフォン操作性を意識した対応も進める。

伊藤毅 サーバーの設置場所が町内にあるとしたら停電時、災害での停電時はサーバーがダウンしてしまう。少なくともサーバーは町外とかクラウドを利用すべきと考える。

町長 サーバーは告知放送センター内にあり停電時は非常用発電機で数時間は保持される

が、今後はクラウドの活用を進める。



井川町のホームページ スマートフォンに対応していない
他自治体のホームページに比べ見やすさに欠ける



他自治体のホームページ一例

伊藤毅 各自治体では、公式LINEを開設し防災、子育て、移住定住など情報を発信している。頻発する自然災害時の防災情報発信ツールとして公式LINEの構築を求めたい。また、LINEと併行した情報発信として、SNSを併行運用することが大事と考える。現在募集している地域おこし協力隊の業務の一つにSNSを活用した情報発信とあるが、応募状況を伺う。

町長 公式LINEを令和7年度に開設する。他のSNSでの情報発信として何のツールを利用するか、何の情報を発信するか検討を進める。地域おこし協力隊の募集状況として未だ採用には至っていないが、引き続き採用活動は進めていく。

一般質問

幼児教育の周知は 外には公開考えていない



成利 白
三浦 市議員

三浦 幼児教育のあり方、取り組みの周知方法は。

町長 こどもセンターのホームページは現

状として行うつもりはない、素晴らしい取り組みをして子供を通わせたいということではなく、今いる子供たち、井川の子供たちに対して教育をしつかり行う。保護者も含め町の人にしっかりと認識していただくためやるべきことをやるが外に公開することは考えていない。当然、子供中心に行われることであり、家庭とセンターの繋ぎ・行政・学校も含めた教育機関が共通認識を持って連携をし、子供の発達をしっかりと見守っている。

て、特に保護者に対して細やかな声がけをすること。子供の成長、園であったこと、家庭であったことを共有できるか丁寧に行っている。

三浦 こどもセンターにおける幼保小のICT活用は。

町長 導入済みの認定こども園等を視察している。保護者の連絡ツール、園児の登園管理、クラス運営等保育士の業務改善につながるような管理ソフトの導入に向けて検討している。

三浦 「子ども誰でも通園制度」について令和7年度の取り組みは。

町長 すでに誰でも通える状況が整っている。

※今回質問に上がったICTとは
●保育士や先生の業務を効率化するための保育に特化したシステムや、園児の安全や行動を見守るアプリ

「幼保小の架け橋 プログラム」は

様々な工夫を行っている

三浦 幼児教育との部署の違いの連携は。

教員 義務教育学校とこどもセンターが一堂に会しての会議を年3回に増やし、互いの保育や授業を参観し意見交換、研修も2回行っている。幼児が学校に行つて学習発表会の予行に参加

したり1、2年生との交流会に幼児が出向き抵抗なく学校生活ができる機会を作っている。また、8年生がセンターで職場体験等をしている。幼小のつながりが一層密になるような手立ても講じ、双方の教職員が素直に情報共有し、一人一人の具体的な指導について知恵

を出し合うことができるよう双方で後押しをしていく。

三浦 幼児教育の基本的な考えは。

教員 交流を大きく進めようとしている、プログラムがただの紙の上のだけじゃなく実効性のあるプログラム、「今こどもセンターにいる子供たちが学校に行つたらこうなるだろう」と一つでも示せるように子供たちを一貫して育ていく。

三浦 これから必要とするところに国などの支援金を積極的に取り組んで、幼児教育アドバイザーや架け橋コーディネーターの育成、配置など取り組みは。

町長 国・県の支援があるがなかなか思うようにやるべきことはしっかりとやる体制で臨んでいき、国・県に先んじて色々なことをやっている。



年長と1年生交流

一般質問

どうなる・消防広域化

議論を重ねて醸成へ



いとう しゅうと
伊藤 秀人
議員



地域の消防力は維持できるか？

町長

まだ広域化の枠組み、前提条件は決

伊藤秀 「男鹿・湖東地区消防広域化協議会」の設立により、将来的に消防広域化が当町にもたらすメリットは何か、デメリットが生じ得る可能性があるとしたら、マイナス要因は何が想定されるか伺う。

町長 広域化によって署所の数は必ず減るが、住民の不安の払拭という点では、署所の距離をどれだけ遠くしないか、効率的な配置にして機能が維持できるか、本町としても譲れない点だ。財政面については、前提条件を詰めてから各方面と相談しながら進めたい。

伊藤秀 全国的に消防の広域化が進まない要因である、広域化によって「消防力が低下する」との地域住民の不安をどのように払拭し、消防広域化に繋げていくのか伺う。

まっていない。当町に当てはめた場合のメリット、デメリットを現時点で明確に言えない。
今回の広域化はスケールメリット（同一の事業の規模を拡大して生まれる効果）を出すという、財政的に非常に厳しく署所数を減らすだとか、どのように消防力を維持強化していくかの議論になっている。

伊藤秀 「広報いかわ」に、歴史民俗資料館の利用人数が掲載されなくなった理由について伺う。

総務課長

歴史民俗資料館の利用人数（入館者）の減少に伴い、広報誌にて利用者数の掲載の必要性の意識が薄れたものと推測している。

教育長

45年前に開館した当初の役割を十分

伊藤秀 歴史民俗資料館は本来の資料館としての役割を果たしているのか、資料館としての役割を果たしていないのであれば、今後どのような管理、運営していくのか、その考えを伺う。



存在目的は果たせるか？

どうする・歴史民俗資料館！

有識者を交え協議へ

果たしているとは言い難い。入館者も平成21年を境に年間100人を切る状態が続いている。

町の文化財保護審議委員会の2点の提言「資料館の本来の役割である資料の収集、保存、整理に力点を置き運営すべし」、「専門家の助言を得て進めるべき」を受け、有識者を交え文化財保護審議委員と今後について協議の予定である。

町の価値ある文化財を守り、歴史や先人の文化を後世に伝えることが重要な責務と考えている。

伊藤秀 来年は町発足70周年にあたり、町史編さん作業、町史の続々巻（第三巻目）の発行についての考えを伺う。

町長

現状としては、続々巻の発刊の予定はない。町の記録という意味では、近年は10年を節目に「歩み」というものを作っている、来年は井川町70年の歩みということで、記録的な資料はしっかりと作っていくつもりである。

一般質問

将来を見据えた農業政策について

ほ場整備事業に関しては、委員会形式の組織的なものを立ち上げて、まずは一步目を切る。

伊藤

農業従事者が減少し、高齢化が進む

現状で、豊かな農地を守り、ふるさと井川の農業を維持していくためには、持続的・効率的な生産体制を確立する必要がある。農業経営基盤安定促進法が改正され、県では「あきた型ほ場整備事業」に取り組んでいる。町の農業の将来を見据えた場合、農業政策を具体的にどう推し進めていくのか伺う。

町長

農業経営基盤安定促進法の改正による地域計画策定の議論をスタートしたばかりである。

いとう かずひこ
伊藤 一彦
議員



整備が必要な20～30アールほ場

る。特に、ほ場整備事業は相続手続き等の課題があるが、収益性の向上が一番大きい決め手、話し合いの中で高収益作物を誰がどの程度担うのかの大きな課題がクリア出来れば進んでいくと認識している。外部の組織力も借りながら、委員会形式で組織的なものを立ち上げる検討をしている。

現在実施している事業も十年先の事業でもやるべきことはやると考えている。一生懸命取り組むために知恵を絞っている。町長 現状としては、今やっている事業の継続である。今の農業政策は、国県事業に対する高上げが市町村に求められている。また、町単独事業だとすれば、一般財源の確保が問題になる。

伊藤 現在、ほ場整備事業以外に農業に対して考えている施策はあるか伺う。

町長

現状としては、今やっている事業の継続である。今の農業政策は、国県事業に対する高上げが市町村に求められている。また、町単独事業だとすれば、一般財源の確保が問題になる。

如何に財源を確保した上で、農業政策によって農家の皆さんに還元しているかの知恵を絞っている。

伊藤

来年度町が立ち上げる株式会社が携わる、ふるさと納税の返

町長

一生懸命、全てにおいて取り組む。米以外の高収益作物を作った先の出口、取引先も作って行きたい。

礼品等に絡めた農業政策に力を入れることを考えているか。



将来を見据えた農業政策に期待

一般質問

被災者支援 どんな決意で臨むか

災害関連死は出さない



しげる
茂
議員

いし
石井

石井

昨年5月24日、国は各都

道府県知事宛に「令和5年度における被災者支援の適切な実施について」を送付し、「その内容を市町村に周知するように」としている。県から通知は来ているか。

**町民生
活課長**

県からは、令和5年6月2

日にメールで全市町村に送信したとの回答があったが、本町では受信が確認できてない。

令和6年11月27日

に県からメールの再送があり收受してい

る。近隣町村も同様のよう

石井

災害対策防止法は、令和3年・4

年に改正され常にアップデイトしている。こんな中で国からの通知が1年半もの長期にわたり置き去りにされていた。あつてはならない事だと思

が、町長の見解は。

町長

言語道断だという事は当然県に伝えたいと思う。

通知は届いていないが新聞やネットを含め情報は得ている。

全部に対応できるものではないが、やれる事については現段階でもしっかりと準備ができてい

石井

国や県に言われるまでもなく、被災者支援は重要な問題だ。

「災害関連死者は出さない」など、強い決意が必要だと思

か。被災者支援にどう臨む

町長

災害関連死を出さないという強い決意は持っている。災害セ

ミナーなどに積極的に参加し勉強している。

長期の災害対応など

ポンプ操法場の整備を

財源が問題

石井

令和7年度の男鹿・潟上・南秋の消防

も同様にするとの話がある。

小型ポンプ操法大会は我町が担当だ。前回担当時は、他町の施設を借用して開催しているが、来年

数年に一回しか使用しない施設に予算を付けるのは問題有りと考えているのか。

石井

特化した整備を提案しているのではない。今ある土地（赤沢山山荘・役場裏駐車場など）を活用したとの提案だ。舗装箇所は選手が活動する範囲に限られる。

消防団員の意識の高揚・技術の向上のために、長期的に考えられないか。

町長

財源の確保がしっかりと出来て、みんなが望んでいるのであれば応えていきたいと思

う。今の現状ではなかなか厳しい。



昨年の男鹿潟上南秋大会（第1分団）

一般質問

水害に対する恒久対策は 実現可能なものを実施



やつやなぎ
八柳

よしゆき
喜行
議員

八柳 街道地区郵便局付近の水害に対する対策等について、第2回議会と第3回議会にて質問してきた。今回は外注調



改善が求められる水害地

町長 費用対効果等考慮した上で、実現可能なものを検討する。
排水溝の定期的な維持管理を実施する。排水溝に堆積している土砂を撤去し、水路の清掃と維持管理を徹底してやること

査による水路の系統調査と水路測量調査の結果報告を基に、来年度に実施する恒久対策の規模とその他のための予算確保と、施工時期等について伺う。

町長 年度の繰越金は修理・修繕に使える。繰越金は、令和5年度決算で約3億円あるが半分

この3カ所の修理・修繕に、会計年度の繰越金を充当することは可能か繰越金の現在高と、いつ何の事業に使うためのお金なのか伺う。

八柳 公民館ホールの「天井からの雨漏り」。国花苑内の定住促進センターは放送設備が無い事で2階の部屋が使用できない。同苑内のプラザ管理棟のトイレ入口のドアは最後まで閉まらないため、注意書のビラが数年前から貼られている状況である。

は基金の積立てか起債の償還に使うとのルールがある。残りの半分は補正予算等の財源に活用する。

八柳 定住促進センターの2階の部屋が使えるよう繰越金の一部1000万円で放送設備を新設する考えはないか。

町長 修理・修繕は必要な時に必要な財源の中で対応している。原因は排気口ダクトから雨水が流入している。修繕計画を進める段階である。

八柳 公民館ホールの天井から雨漏りがある。どう対処するか伺う。

町長 2階は使用申し込みが少ない。現時点では、修繕費をかけてまで放送設備を設置する考えはない。

繰越金を修繕に！

必要な時に対応

を来年度当初から進める。改善できるところは少しでも前に進むように

改善策を考えて実行している。



雨漏時の公民館ホール

一般質問

農家の担い手確保 後継者支援は 支援方法を真剣に検討している



ふじ た しょうご
藤田 将五
議員



頑張っている後継者

藤田 農家の担い手不足や高齢化について、全国的にも問題となっている。さまざまな政策を行ってきたにもかかわらず、改善の見通しが立っていないのが現状だ。自治体でできることは限られるかもしれないが、この危機的状況をどう

う捉え、どういった対策を考えているのか伺う。

町長 井川町の農業者も毎年10名程度減少している。農業者の現状、要望を把握するため、農業者アンケートを実施した。後継者の確保、資機材施設等に関する支援の要望が多数を占める結果となっている。我々としても地域の農業所得の向上、農家の支援と町としてどういう方法があるのかを現在真剣に検討を重ねている状況だ。

藤田 これからの農業を担っていく後継者を

の確保と育成が必須であり、特に現在農業を続けている後継ぎへの支援を充実させることも重要だ。新規就農者、担い手の確保と育成、現在頑張っている後継ぎへの支援にどのように取り組んでいくのか。

町長 新規就農となると、経費は膨大な

ものになり、そこに課題がある。新規就農者に対する初期導入の支援についても町として考えていかなければならないと思っている。後継者支援についても、経営の切り替えのタイミング、農機具の更新のタイミングに何らかの補助というのも考えていく時期に差し掛かっていると思っている。

農作物の規格外品に 可能性を

新たな商品開発に使いたい

藤田 現在進めている地域商社で加工所も計画されているが、煎餅など米粉を使った商品に使えると思われる「くず米」にも着目したり、野菜のB品や訳あり品なども農家からの購入対象とするなどが考えられるが町長の見解は。

町長 B品や規格外品といった廃棄されるようなものを町が買い取って新たなものに転換

していくことができればいいなと思っている。それがうまく回るように今回の地域商社事業に行き着いた。消費者に選んでもいただける商品開発にもしっかりと戦略を持って展開していきたい。

藤田 ふるさと納税返礼品は米が人気だそうだが、来年度以降の確保する米の量の考え方、入手方法、価格設定、品質の確保などについてどう

考えているのか伺う。

町長 米はJAの他、農業法人、個人農家から提供をいただいた。JAとの出荷契約数量を守った上での提供ということで、なかなか難しかったのが実感である。この仕組みは、米を町が買って、最終的に残るお金でまた農家さんに再投資をするという流れを作るもの。農家さんとは事前に出荷数量契約を結ぶことが一番大事なことで、と思う。価格についても、ふるさと納税の販売価格との関連、全国の米の値段の状況もあるが、農家さんにはなるべく高く払いたい気持ちで頑張りたい。



B品・訳あり品の可能性は？

陳情

7件の陳情を審査。6件を採択し関係機関に意見書を提出。1件を反対多数で不採択とした。

採 択

◆安全・安心の医療・介護実現のため人員増と処遇改善について国に意見書提出を求める

全員一致

◆政府の責任で医療・介護施設への支援を拡充しすべてのケア労働者の賃上げや人員増のため国に意見書提出を求める

賛成多数

◆「介護保険制度の抜本改善、介護従業員の処遇改善を求める」国への意見書提出を求める

全員一致

◆「18歳までの医療費窓口負担の無料化」を国の制度として実施を求める

全員一致

◆「小・中学校給食の無償化」を国の制度として実施を求める

全員一致

◆国民の命を守るために早急に日米地位協定の抜本的改定を求める意見書の提出を求める

賛成多数

不 採 択

◆健康保険証廃止の中止について国に意見書提出を求める

反対多数

全員協議会

11月22日(金)、「まちづくりに係る会社設立について」を主題に開催された。町側より資料に基づき説明を受けたが、資料不足・計画不足との声があり、再度の開催を求めた。
11月27日(水)開催の議会運営委員会で12月議会に会社設立の補正予算が計上されていることから、予定の会期を変更し、再度全員協議会開催を求めた。
12月3日(火)、議会の要請による会を開き説明を受けた。

議員研修視察

日本花の会

結城農場

場 所 茨城県結城市

期 間

令和6年10月4日(金)

参加者 議員 9名

日本国花苑を検討する際に、原点となる桜の見本園にて、桜の品種を組み合わせた名所づくり、桜の樹の基本的な育成、管理についての説明を受けた。

参加者 議員 9名

ふるさと納税の寄付額増大のため、特産品(返礼品)の開発に向けて、先進地の茨城県内の事業所にて、「農産物の可能性」を引き出す。生産、加工、販売で各々が連携し「地域ぐるみの六次産業化」の実現。規格外や廃棄されていた食材を生かし、加工で価値を付けて販売等、ふるさと納税商品開発の考え方の識見の向上につながった。

(有)スズラン

ロードハウス・工房

We man

場 所 茨城県下妻市

期 間

令和6年10月4日(金)



有意義だった工房We manの視察

令和6年度 所管事務調査による現地調査

日 時

令和6年11月28日(木)

午前10時～午後3時40分

場所・目的

1. 井川新橋周辺・工事現況の確認
2. 河川災害(大麦井内線)・工事現況の確認
3. 井川町コミュニティセンター(蒔田)・避難所としての現況確認
4. 日本国花苑・宿泊棟造成、松くい虫被害等の現況確認
5. 旧小学校・現況の確認

議員派遣

ふるさと井川会 9名参加

10月5日(土) 東京

都新宿区 アルカディア

市ヶ谷を会場に「首都圏

ふるさと井川会」が開催

された。会員、来賓、議員、

職員合わせて69名が参加

した。

場 所

令和6年11月18日(月)

(11月20日(水))

滋賀県大津市・全国市

町村国際文化研究所

(JIAM)

受講者

八柳 喜行

藤田 将五

町村議会議長全国大会

11月13日(水)

東京・NHKホール

住民自治に基づく個性と活力に満ちた町村の実現をめざし、全国926町村の議長が参加。

特別決議

●大震災等からの復旧・復興、原子力発電所事故への対応及び、防災・減災対策の確立を求める。

●少子化対策の推進及び東京一極集中の是正を求める。

南秋議員大会

10月21日(月)、八郎潟町農村環境改善センターにて開催。

一般社団法人ドチャベンジャーズ理事石岡香澄氏が「次世代へつなぐまちづくり」について講演。

河川の改修及び整備を期するなど8項目の大会決議を上げた。

「私の暮らすこの町のいいところ」



白川 智也さん
(田中町内)

農事組合法人つかま
ファーム理事。井川町消
防団第二分団班長とし
て、超地域密着で活躍さ
れています。そんな白川
さんに聞きました。

Q 井川町の好きな場所やお気に入りのスポットはどこですか？
A 井川さくら駅ですね。私が高校生になる頃にちょうど完成し、通学でよく使った思い出の場所です。ここ数年では11月になるとイルミネーションで飾られ、時おり携帯で撮影している人も見られるちょっとした映えスポットになりましたね。

Q 井川町のイベントや伝統行事で特に楽しみにしているものはありますか？
A 参加しているイベントでは田中町内の盆踊りが一番楽しみです(笑)

町のイベントの中ではさくらまつりの花火を毎年楽しみにしています。現地に行けなくても町のあちこちで観ることができ、昨年も家の敷地から近所の人達と一緒に観ることができました。

Q 町民の皆さんと交流する中で印象に残っているエピソードはありますか？
A 前談にあった田中町内の盆踊りでのことです。昨年は雨のため、夏祭りとして分館での交流会に

なっていました。普段近所においても中々話す機会のない人達から「あなた達が頑張っているから、毎年楽しみにしている」と言ってもらって感動しました。

Q 子どもや若い世代に伝えたい町の魅力や良さはありますか？
A 井川町は子育て支援が充実していて子育てしやすい環境だと思っています。

「若者よ 地元へ帰って 子育てだ」
最後に、町民の皆さんや議会だよりを読む方々へ、何でもいいです！メッセージをお願いします!!

A 井川町をより良い町にするためには、議員の方々だけではなく町民の皆様の協力が大切だと思います。難しいことは無理でも盆踊りや体育大会へぜひ参加して町をみんなで盛り上げていきたいと思います。

お忙しい中、素敵なお話をありがとうございました！
(担当 藤田 将五)

議会のうごき

- 9月20日 第2回井川町福祉会 理事会 (桐ヶ丘)
25日～26日 町村議会広報研修会 (東京都：ニッショーホール)
27日 第33回暴力団壊滅秋田県民大会 (秋田市：ミルハス)
10月2日 南秋田郡町村議会議長連絡協議会 (五城目町役場)
4日～6日 議員研修会・第36回首都圏ふるさと井川会総会 (茨城県・東京都 役場：小会議室)
7日 井川町緑化並びに環境美化推進事業 記念植樹 (日本国花苑)
7日 湖東厚生病院運営委員会 (五城目町：グリーンロイヤル丸富)
8日 秋田県町村議会議長会 正副会長会議・理事会 (秋田市：市町村会館)
10日～11日 東日本町村議会議長会会長会 (青森県：ホテル青森)
15日 北海道・東北町村議会議長会 (東京都：全国町村議員会館)
16日 全国町村議会議長会理事会・総会・研修会 都道府県会長会 (東京都：全国町村議員会館)
21日 南秋田郡議員大会 (八郎潟町：農村環境改善センター)
24日 志田千陽選手秋田県県民栄誉賞顕彰式 (秋田市：秋田県庁)
30日 秋の園遊会 (東京都：赤坂御苑)
11月7日 第57回秋田県遺族連合会南秋田郡・潟上市戦没者遺族地方大会 (井川町農村環境改善センター)
8日 秋田県秋田臨海処理センターエネルギー供給拠点化事業「安全祈願祭・起工式」(秋田市：秋田県立武道館)
8日 大潟村創立60周年記念式典・祝賀会 (大潟村：サンルーラル大潟)
11日 南秋田郡町村議会議長会連絡協議会研修会 (神奈川県内)
12日 秋田県関係自由民主党国会議員との懇談会 (東京都：グランドアーク半蔵門)
13日 町村議会議長全国大会・研修会 (東京都：NHKホール)
18日～20日 市町村議会議員研修 新人議員のための地方自治の基本 (滋賀県：全国市町村国際文化研修所)
19日 秋田県知事との行政懇談会 (秋田市：市町村会館)
22日 第9回井川町議会全員協議会 (役場：大会議室)
25日 秋田県森林・林業・林産業活性化推進議員連盟連絡協議会 定時総会 (秋田市：イヤタカ)
27日 第9回井川町議会運営委員会 (役場：正副議長室)
28日 議会だより編集委員会役割分担等 (役場：小会議室)
28日 所管事務調査による現地調査 (日本国花苑・旧小学校等)
12月3日 第10回井川町議会全員協議会 (役場：大会議室)
4日 井川町福祉会 (地鎮祭) (桐ヶ丘向かい)
5日～10日 第4回井川町議会定例会 (役場：議場)

編集後記



新年おめでとうござい
ます。町民の皆さんにおかれま
しても、新しい年を迎え健やか
にお過ごしのことと存じます。
今号は予想以上にタイトなス
ケジュールでしたが、編集委員
一丸となって制作を進めてま
いりました。

中でも、趣向を変え直接町民
の方のお話を伺い、井川町に
対する思いをQ&A方式でまとめ
てみるなど、新しい試みにも挑
みました。

発行責任者 遠藤 政勝
編集委員長 石井 茂
副委員長 伊藤 毅
委員 伊藤 一彦
委員 伊藤 秀人
委員 三浦 成利
委員 藤田 将五